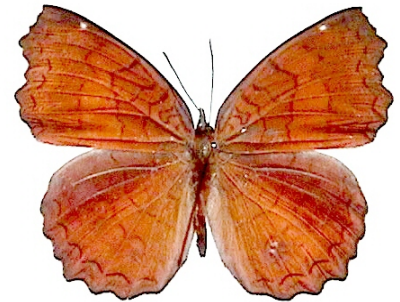


Sep. 17, 1999 : 竹富島

チョウの生態 Video 記録の第一人者：金子先生に同行。10時近い竹富島の広い白い道はすでに日差しが強い。喫茶「ちろりん村」横を少し進んだ小道にギョボクがあるはずなのでそちらに向かう。ところがどうも様子がちがう。両側にシロノセンダングサが茂ってコンドイ浜へと続く小道のはずが、右手林のかなりの部分が大きく切り開かれ、やたらと道幅が広げられている。肝心のギョボクも切り倒されてしまったのかかけらもない。これでは村落入口の看板にうたっている「草花・蝶・魚貝・その他の生物をむやみに採取することを禁止する」という規制の文言は一体何なのか、生物が生きてゆくための環境の保護こそが第一ではないかと腹立たしさを覚える。自然破壊がなまなましい悪路横の荒れ畑にカバタテハの食草であるヒマが茂っており、筆者にとっては初めてのカバタテハが、メスの産卵行動なのかそれとも♂が♀を探しているのか、



この緑の一角で軽快な滑空を展開して遊んでいる。カバタテハの習性に詳しい先生がすぐさまカバタテハの幼虫を発見し Video 撮影に入る。その間、



990917 竹富島 カバタテハ

筆者は初めてのカバタテハをネットで追っかける。決してきれいなチョウではないが、どこにでもいる種ではないので標本として

確保しておきたいのだ。粘土質の赤土がじゃまをするものの、水平に滑空するタイプはネットインするのにあまり苦勞はしない。2頭をゲットしてよしとする。

Nov. 3, 2003 : 竹富島

昼食タイムをいつものそば屋「やらぼ」で過ごす。車エビがドカーンと盛られた名物野菜ソバをもう一度堪能するかとも考えたが、エビ殻をむくめんどくささを思い出して普通の沖縄ソバにする。あいかわらず麺そのものは決してうまくないが、独特のだし味のスープを楽しみ、そのあとで一気に飲む冷たい麦茶がとてもうまい。満足感にひたりながら店を出ると、とめてある自



転車の先に見える草つきでカバタテハが複数頭、独特の飛翔パターンで遊んでいる。クズなどの豆科植物がマントを形成している場所では竹富島でもウスアオオナガウラナミシジミがごく普通に飛び交う。ハンドルをとられる深い砂利道から広いアスファルト道路に出て、コンドイ浜方面とは反対方向へと道路沿いの草花を注意しながら走る。例年、シロノセンダングサに群れて飛ぶスジグロカバマダラが今回はセンダングサの花が少ないことも関係しているのか数がまばらで、ジェット機のランダム飛行を思わせるウスキシロチョウの元気あふれる訪花もみられない。かつて自転車を放置して延々と入り込んだ畑地沿いの緑深い草道は、おそらくスジグロカバマダラ、シロオビアゲハ、ヤエヤマカラスアゲハ、リュウキュウムラサキ、リュウキュウミスジ、あるいはオオゴマダラなども遊んでいるだろうが、やり過ぎて進む。西港につながる小道へと降りてゆくとカバマダラがゆったりと飛んでいる。